

令和5年度舟着茶話会グループワークまとめ

テーマ「大丈夫!?舟着の未来 パートII」

人口減少・少子化対策・移住定住促進

現状・課題

- ・人口が少なく、若い人や子どもが少ない
- ・地域外へ出た大学生や子育て世代が地元へ戻ってこない
- ・地域住民の危機感が足りない

取組み・対策

- ・地域と関わるきっかけをつくり地元愛を育む
- ・SNSを活用し、地域のイベント情報の提供や共有を図る
- ・地域が時代に合わせて変われば若い人の意識も変わるのでは？
- ・市役所任せではなく、地域で課題整理をする必要がある

〔地域のつながり〕

現状・課題

- ・イベントが少ない（各団体の活動が始まり楽しかった）
- ・防災など課題ごと団体を作り、声掛けや発信が必要
- ・イベント開催には費用がかかる
- ・地域内のつながりの重要性や経験の大切さが理解できていない
- ・子どもから高齢者までの集える場所が必要

取組み・対策

- ・防災訓練や消防団PR、夏まつり等の顔の見えるイベントを開催する
- ・舟着地区コミュニティや更生保護女性会、井戸端会議などの協力を得る
- ・地域内で知識（技術）を持った人の知識（技術）を地域内で教える
- ・地域活動交付金を活用する
- ・SNSを活用して情報を発信する
- ・舟着地域の住民が集まれる拠点をつくる

〔商業施設の誘致〕

現状・課題

- ・商店やコンビニがない
- ・移動販売車の場所へ高齢者だけでは行けない

取組み・対策

- ・コンビニ等のお店の誘致する
- ・移動販売車の販売箇所を増設する

〔農業〕

現状・課題

- ・経営継承制度を活用する（愛知県普及員が検討中）
- ・地域内で共有する農業機械を導入する
- ・地元の農作物が販売できる場所の設置や作物の活用を考える
- ・小学校と連携して農作物を栽培してブランド化し、魅力にする（例：有機栽培）

取組み・対策

- ・従事者の高齢化し、後継者がいない
- ・農業機械にコストがかかる
- ・新規就農した場合の収益見込みが分からない、ほ場が狭い（収穫まで期間の収入、草刈り）

1部：講演「舟着の未来につなぐこと」 2部：グループワーク「舟着の未来につなぐことは？」

舟着地域においても少子高齢化により人口が減少する中、舟着に住んでいる人が安心して暮らし続けるため、世代を超えて舟着が続くためにはどうするかを地域の皆さんで話し合いました。

令和6年1月14日(日)開催
会場：新城市クリーンセンター

参加者39名 + 関係者7名

〔地域活動（お役）の負担軽減〕

現状・課題

- ・お役を減らしたいが減らせない（自分が「長」のときに変えたくない）
- ・人が少なく、一人でお役が重なることがある（例：消防団・PTA）
- ・消防団の成り手がいないが、大災害時には特に必要とされる
- ・お役が地域外へ出ていく原因になることがある

取組み・対策

- ・お役の役割を明確化する等見直しを行い、お役を定年制を考える（区役員、婦人部等）
- ・若い人の意見を取り入れ、お役の見直しを行う
- ・消防団員は年齢制限を撤廃する

〔誘客・魅力発信〕

現状・課題

- ・舟着山の樹木が成長し、景色、展望が悪い
- ・自然環境など地域の魅力が発信されていない

取組み・対策

- ・舟着地域住民で舟着山の環境を整備する（誘客につなげる）
- ・SNSやコミュニティだよりにより地域の魅力やイベント情報を発信する
- ・地域の拠点施設を設置し、魅力を発信する



〔交通手段〕

現状・課題

- ・Sバスが利用しにくい
- ・舟着地域内の接続道路がよいくない
- ・舟着に来てもらうための交通手段が少ない

取組み・対策

- ・Sバスの時間、バス停等の見直しをする（区長会で検討中）
- ・Sバスをデマンド型に移行して自宅近くまで来てもらう
- ・道路の改良を行う

〔舟着は子どもにとっていいところ!!〕

- ・学年を越えたつながりで、子ども達が遊んでいる！
- ・近所のお年寄りが子どもに声掛けしてくれる！

〔空き家・空き地・農地〕

現状・課題

- ・空き家があっても物件として扱われていない、状況や情報が分からない
- ・移住希望者と貸主の条件が合わない（金額、借地面積等）
- ・移住者が不審者ではないか不安がある
- ・農地や傾斜地、市街化調整区域で住宅が建てられない
- ・休耕地や荒地があるが、太陽光発電は困る

取組み・対策

- ・自然環境の魅力や災害が少ないことをPRして移住者を増やす
- ・不便さを理解できる方に移住してもらうための条件を決め、地域として受入体制をつくる
- ・休耕地や荒地でソバ栽培をする